

## 目次

はじめに	P 2
1. 各日の状況（安否確認状況も含む）	P 2
2. 体育館（避難場所）・グラウンドでの状況【3月11日（金）～13日（日）】	P 5
3. 学内外の状況	P 6
4. 学生会の活動状況	P 7
5. 安否確認システム運用状況	P 9
6. 学生安否確認作業方法とトラブル、今後の対応について	P 9
7. 防災備蓄品について	P 10
8. 今後大規模災害（地震）が発生した場合の対応について（提言）	P 10

## はじめに

平成23（2011）年3月11日（金）午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震では、マグニチュード9.0、仙台市青葉区では震度6弱を記録し、本学でも甚大な被害が発生した。

本報告書は、土樋キャンパスでの事象を中心に、発生日の3月11日（金）から3月31日（木）までの各日の状況と安否確認状況等の記録（4月7日（木）に発生した余震と翌8日（金）の状況含む）学生会の活動記録、安否確認システムの運用状況、今後大規模災害（地震）が発生した際の対応（提言）を取りまとめたものである。

当時の記録等を学生部の記録並びに視点、そして東北学院広報課で把握している記録から作成したものであるが、項目によっては事実と相違が生じている部分や十分な記載ができていないものも存在しているが、この点ご了承願いたい。

## 1. 各日の状況（安否確認状況も含む）

### 3月11日（金）

- ・14：46。東北地方太平洋沖地震発生。
- ・地震発生後、緊急避難指示。土樋キャンパスでは本館前ロータリー、グラウンドに学生・教職員が避難。その後、一斉避難はできず学生10人に対し教職員が1名付き添う形を1単位として東北大学テニスコートへ移動。その際、泣き崩れる女子学生もいた。東北大学テニスコートにて毛布を配付。
- ・15：15。泉キャンパスにはけが人が居ないことを確認。多賀城キャンパスとは連絡が取れない状態。
- ・15：40。土樋キャンパスでは、避難場所を東北大学テニスコートから本学体育館に変更のため移動開始。学生会（常任委員会、総合役員会、体育会常任幹事会、文化団体連合会本部）の学生も避難誘導の補助、部室からの石油ストーブの搬出作業を行った。
- ・16：00。理事長、学長以下、課長までとする「東北学院災害対策本部」（以下、災害対策本部、とする）を本館会議室に設置。3月14日（月）以降は3キャンパステレビ会議にて。当日から24時間体制が1週間続けられた。
- ・夕方以降。体育館では、教職員が、避難者に対し、毛布、備蓄飲料水、備蓄食料、生協から提供を受けた食料を配布。
- ・体育館への避難者には、出席カードを配布し、氏名、学生番号等を記入させた。
- ・21：00。各キャンパスの状況把握。土樋：学生教職員、一般市民約400名が体育館に避難。泉：同様に約70名が1号館1階ロビーに避難。多賀城：多賀城市からの要請で、礼拝堂を避難場所として開放し、同様に、約400名が避難。
- ・深夜。対策本部はマスコミからの問い合わせを受け、各キャンパスの避難者数等を報道機関に連絡。
- ・学生課を中心した各課事務職員は、18日（金）まで交代で泊り込み勤務を行い、避難者対応、避難所運営等を行った（当日～翌日にかけては、教員の一部も泊り込み、同様の活動を行った）

### 3月12日（土）

- ・ 7：00。体育館避難者に乾パンと水を提供後、一時解散の指示。
- ・ 10：00。災害対策本部会議。各キャンパスの状況報告と確認事項。
- ・ 23：00。土樋キャンパスで電気が回復。
- ・ 泉・多賀城キャンパスの状況確認。
- ・ 後期入試合格発表（正門前の小掲示板にて）。
- ・ 体育館（避難場所）以外の建物への出入禁止措置。
- ・ 避難（宿泊）者数：土樋約130名、多賀城約100名、泉ゼロ。

### 3月13日（日）

- ・ 7：00。体育館避難者に乾パンと水を提供後、今晚も宿泊を希望する者を確認して（約70名）一時解散。体育館は清掃を行い、終了後閉鎖。
- ・ 9：30頃。礼拝堂の天井が落下。
- ・ 10：15。災害対策本部会議。
- ・ 12：00。災害対策本部会議。
- ・ 17：00。災害対策本部会議。
- ・ 学生は3キャンパスとも当分の間入構禁止措置。
- ・ 避難場所を体育館から8号館3階の第1（男）、第2会議室（女）に変更。
- ・ 避難（宿泊）者数：48名（土樋）。これらの学生に対し、状況確認のためアンケートを実施。
- ・ アンケートの結果、心のケアが必要とされる学生も存在したため、カウンセリングセンター所長の面談を開始。
- ・ 東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、その近隣に居住もしくは実家がある学生の中には、両親と連絡が取れない者もいた。
- ・ 生協が避難（宿泊）者に対し炊き出しを開始。
- ・ 水道が復旧。

### 3月14日（月）

- ・ 7：00。体育館避難者に乾パンと水を提供後、今晚も宿泊を希望する者を確認して一時解散。
- ・ 10：00。災害対策委員会実施。
- ・ 12：10。ホームページ・インターネット・電話回線が復旧。
- ・ 学生有志（主として総合役員会の各団体に所属）が、ツイッター、ミクシィ等のインターネット環境の使用並びに土樋・泉キャンパス近辺の避難所を訪問しての在学生の安否確認、仙台市内を中心に被害状況の情報収集を開始。

### 3月15日（火）

- ・ 15：00。災害対策委員会。
- ・ 電話による安否確認作業開始（31日まで）
- ・ 3月24日の卒業式、4月4日の入学式中止を決定（ホームページ掲載並びにプレスリリース）

### 3月16日（水）

- ・ 15：00。災害対策委員会。
- ・ 4月下旬まで休校。関連する教務関係行事も全て中止を決定。

### 3月17日（木）

- ・ 学生安否確認は、約5,700名が確認済み。

### 3月18日（金）

- ・ メンタルヘルスについてHPに掲載。
- ・ 土樋キャンパス避難学生（9名）をアークホテル仙台に宿泊させることを決定（3月19日より3月24日まで）
- ・ 事務職員の泊り込み勤務、終了。

### 3月19日（土）

- ・ 避難学生をアークホテル仙台にて宿泊（3月24日まで。学生課職員1名が交代で付き添い）

### 3月22日（火）

- ・ 3キャンパステレビ会議の環境が整う。
- ・ キャンパス施設被災特別調査委員会が発足。
- ・ 教職員は全員無事を確認。
- ・ 学生安否確認。約9,000名確認（うち2名死亡）
- ・ 学納金新入学生特例措置を決定。
- ・ 学納金の納入を4月8日まで延期。
- ・ 新入生における入学延期について。本人の希望により入学を1年間延ばす（入学金は来年支払い）ことを決定。

### 3月23日（水）

- ・ 学生安否確認：確認数10,490名（うち死亡3名）未確認数1,727名。
- ・ 青山学院大学から救援物資到着。
- ・ 学生有志による安否確認を終了とし、データ等を引き継ぐ。

### 3月24日（木）

- ・ 学生安否確認：確認数11,072名（うち死亡3名）未確認数1,145名。
- ・ アークホテル仙台での避難学生宿泊、終了。

### 3月25日（金）

- ・ 学生安否確認：確認数11,925名（うち死亡3名）未確認数292名。

### 3月28日（月）

- ・ 学生安否確認：12,093名（うち死亡3名、行方不明1名）、未確認数124名。

- ・文部科学省高等教育局長の視察。
- ・「災害ボランティアの募集」開始、新入生に対する財政的な支援を決定。

### 3月29日（月）

- ・学生安否確認：12,199名（うち死亡3名、行方不明2名）、未確認数18名。
- ・「東北学院大学災害ボランティアステーション」設置。安否確認をした学生がボランティアを志願。
- ・他大学からの援助の申し出。

### 3月30日（火）

- ・学生安否確認：12,216名（うち死亡3名、行方不明2名）、未確認数1名。
- ・5月9日（月）から新年度授業を開始することを決定。
- ・新入生オリエンテーションは、4月27日（水）～30日（土）の4日間で、工学部は多賀城キャンパスにて、その他の学部は土樋キャンパスにて実施することを決定。なお、英文学科夜間主コースのオリエンテーションも昼間主コースと同様の時間帯で実施する。このため、出席が難しい新入生に対しては、英文学科長並びに夜間主コース主任を中心に別途説明を行うこととした。
- ・災害ボランティアステーション設置に伴い、30名弱の学生が登録。
- ・災害対策本部（本館会議室）を総務課内に移す。

### 3月31日（水）

- ・学生安否確認終了（確認率100%）：12,217名（うち死亡3名、行方不明2名）
- ・安否確認の最後の1名は、学生部職員が該当者の自宅に赴いて、隣人から健在を確認した。

### 4月7日（木）

- ・23：32。仙台市青葉区で震度6強（マグニチュード7.1）の地震発生。余震としては最大級。

### 4月8日（金）

- ・9：00。災害対策委員会。昨夜の余震によるキャンパス内安全確認のため、本日の業務の中止を決定（ただし、施設課、教務課等業務を行った部署もあり）
- ・キャンパス内建物診断のため4月8日と9日、再び構内立ち入り禁止措置。

## 2. 体育館（避難場所）・グラウンドでの状況【3月11日（金）～13日（日）】

- ・トイレ使用：水道が止まったため、トイレの使用を制限した。男性の小用は屋外にて行うこと、屋内トイレにおいても、女性の小用は水を流さないこと、男女の大用時にのみ水を流すこと。なお、女子学生が交代で女子トイレ入口前に立ち、その旨を伝える役を担った。
- ・教員の協力：当日午後、全学教授会が開催されていた（地震発生時はまさに全学教

授会の最中だった)関係で、教員も通常の春休み期間よりは多く出勤していた。地震発生後、学生教職員は東北大学テニスコートへの一時避難を経由して体育館に避難してきたが、その際、各種行動時(避難者カードの配付・回収、各種備蓄品配付)の教員(特に30才~40才台)の協力は大きかった。

- ・情報が無い不安、情報が入ったことによる不安。地震直後から停電となったため、その後の情報を把握するのは、携帯電話付属のワンセグテレビやラジオであった。しかしながら、かなりの緊急事態のため情報も錯綜して伝えられることが多く、正しい情報は一体どれなのかということが問題となった。また、ワンセグで津波の襲来を目撃した避難者の中には、自宅・実家が津波襲来の範囲内の者もあり、今度は、家族・家屋に対する安否への不安が表面化した。不安を訴える者や諦めを口にする者に対して、周りの人々が励まして心身の安定を保つための動きを行っていたことは、当日の異常な状況を省みれば特筆に価する。
- ・当日の夜以降：館内に準備されていた自家発電機を使用して体育館内にあったファンヒーターを使用した。
- ・携帯電話の充電：自家発電機とドラムリールを使用して避難者の携帯電話の充電を行った。その際ルールとして、充電時間を一人15分を限度とし、随時交代して利用した。なお不公平にならないように、充電器前には学生が常駐して充電終了と交替の掛けを行った。
- ・マイクロバスの使用：停電により暖を取ることも不可能になったため、後援会のマイクロバスのエンジンをかけて車内を暖めて毛布を準備し、体調不良者と高齢者を優先的に滞在させた。主に理事長をはじめとする教育職員が利用した。
- ・ワゴン車の使用：同じく後援会のワゴン車を使用して、エンジンをかけてライトを点灯し、体育館内を照射した。

### 3. 学内外の状況

- ・施設課関連。建物の被害状況の確認開始。エレベーターは停止したが、人の閉じ込めはなし。防災備蓄品の搬出の準備。7号館屋上の煙突が倒壊寸前であることが判明。警備隊が中心となって、正門前の市道を通行止めにし、交通整理を実施。各キャンパス施設の被害状況点検開始。
- ・広報課、施設課、学生課の職員が、夕方に学内各施設の撮影を(進入可能なレベルまで)行った。
- ・停電と寒さ。季節外れの雪で防寒対策が難しい状態。また、年度末のため灯油の備蓄も少なかった。停電のために、石油ファンヒーターが使用不能。石油ストーブが活躍。運搬等については、上記の通り学生が活躍。同様に、パソコンや電話が使用不能。非常用電話がつながっても、警察も出動できない状況。
- ・電気、ガス、水道は停止、携帯電話は不通。メールは、数時間は通常どおり使用できた。水道が不通となったため、トイレが使えない。建物の高架水槽の水がなくなれば、使用停止となる状態であった。
- ・地震発生時、土樋キャンパス5号館において全学教授会が開催されていたため、学長、副学長を含めた役職者は、そちらに出席していた。

- ・発電用ガソリンと石油ストーブ用の灯油の枯渇。ガソリンスタンドが閉店し、また取引先も緊急車両優先で補給できず。
- ・スーパー、コンビニエンスストアも閉店。営業しているのは一部の個人商店のみ。
- ・物資不足は約3週間続いた。

#### 4. 学生会の活動状況

震災発生直後から、常任委員会を初めとする学生会諸団体の多くの学生が、避難誘導・学内避難所の運営・被災状況の情報収集・在学生の安否確認等様々な活動を教職員と共に長期間に渡って率先して行い、大学の復興に多大な貢献を果たした。

未曾有の災害であり余震も続く中、自ら被災しながらも不安を省みずに活動したことは賞賛に値するものである。

以下、学生会から提出された活動内容を記す。前項と重複する部分もあるが、学生の献身的な活動を心に留めていただきたい。

##### 3月11日（金）

- ・14：46。東北地方太平洋沖地震発生。
- ・常任委員会や体育会常任幹事会などのメンバーの一部は大学構内にいた学生・教職員の避難誘導や体育館の避難所運営の手伝いをする。
- ・避難所では主に夜間の見回りや暖房器具の管理、携帯電話の充電希望者の統制、体育館常任幹事会のパソコンを使用しての情報収集や、動画配信サイトでの各地の被害状況の確認など。

##### 3月12日（土）

- ・引き続き避難所運営手伝い。

##### 3月13日（日）

- ・体育館片付け及び8号館3F（第3、4会議室）に活動拠点を設ける。
- ・ツイッター、ミクシィにて安否確認の情報を配信。
- ・自転車で若林区、青葉区、原付バイクで泉区、太白区の避難所に赴き本学学生がいないか確認。
- ・携帯電話のアドレスに登録されてある友人知人や、課外活動団体ごと、所属ゼミごとに細分化してメールし、①名前②学生番号③現在位置④現在状況を付して返信してもらう。

##### 3月14日（月）

- ・前日に引き続き避難所訪問
- ・3名の学生の携帯電話のEメールアドレスを使い、安否確認作業のメールを送信。以降チェーンメール方式で情報の拡散を狙う。
- ・ツイッター、ミクシィにて不定期に情報配信。

### 3月15日（火）

- ・主にメール等で得た情報を整理。
- ・個人アドレスを使用しての情報収集に対し、不安だという声が多く寄せられたのでツイッターにて正式なアドレスであることを配信。
- ・大学のサーバーが復旧。tsccのアドレスへ安否確認の情報を送るよう情報配信。携帯のメールでの確認作業も継続。

### 3月16日（水）

- ・メールなどで寄せられた情報の整理。

### 3月17日（木）

- ・メールなどで寄せられた情報の整理。

### 3月18日（金）

- ・各々の生活環境を整えるため、安否確認作業を一旦終了。

### 3月22日（火）

- ・学生2名が自転車で石巻へ赴き、現地の状況を視察。石巻ボランティアセンターに行き、何か自分たちにできることはないか確認。津波被害を受けた地域では瓦礫や汚泥の撤去のための労働力が足りていないことを知る。

### 3月24日（木）

- ・常任委員会のメンバーは新たに発足するボランティアステーションの立ち上げに協力。

### 3月25日（金）以降

- ・ボランティアステーションがボランティアの斡旋を行うなどしたが、安否確認のメンバーでの主だった活動はなし。

### その他

- ・8号館の会議室を使って安否確認作業をしていた時期は、同じく8号館第1、2会議室を避難所として開放していたので、避難者への対応も並行して行った（交通網の現状やテレビを設置しての情報の提供など）
- ・上記の関係もあり、安否確認作業中は日替わりで泊まり込み、情報整理を行った。
- ・活動に参加した学生は有志であり、活動を行うかどうか（安全面・健康面）は個人の判断とした。

※ 今回、多大に尽力してくれた学生の働きに対し、大学は、在学生に対して学長特別表彰を授与する（対象者23名）ことを決定し、平成24（2012）年1月16日（月）に表彰式を執り行ったが、志半ばで卒業となった（受賞対象にはならなかった）平成22（2010）年度の卒業生諸兄姉も同様の苦労・活躍があったことを改めて付記す

る。

## 5. 安否確認システム運用状況

安否確認システムは、平成21（2009）年から運用を開始した。これは、震度5強以上の地震が発生した際に、災害対策委員会の責任者の緊急携帯電話から発動し、するものである。

今回は、3月11日と4月7日の2回発動した（地震発生約1時間後）しかし、登録者が全学生の約2割にとどまっていたこと、また中にはメールアドレスを変更していたり、保護者のアドレスを入力していなかった学生などもいたことから、機能を十分に発揮することができなかった。

なお、安否確認システムへの登録は、毎年4月の新入生オリエンテーション時に全員の登録を行っている（地震発生時の2011（平成23）年3月時点では導入3年目）ことを付記する。

## 6. 学生安否確認作業方法とトラブル、今後の対応について

作業開始当初は、学生会が先行して実施していた安否確認により大学に返信の電話もしくは返信メールを行った学生のデータを入力するケースが多かった。

### 【安否確認作業の流れ】

#### ①安否確認一覧表作成

教務システムから在学生データをダウンロード、加工して安否確認一覧表を作成。

#### ②－1 大学側から電話をかける場合

一覧表を任意に学部・学科・グループで区分けして、担当者へ配布。

担当者は電話をかけて安否を確認する。

一覧表もしくはメモ用紙等に必要事項を記入する。

#### ②－2 大学側が電話を受ける場合

大学からの電話に出られなかった学生、もしくはHP等で安否確認を実施している旨を知った学生からの電話を受ける。

一覧表もしくはメモ用紙等に必要事項を記入する。

#### ②－3 大学側が安否確認メールを受信した場合

返信されたメールを出力し（学生番号・氏名・被害状況等が記載）保管もしくは入力に回す。

#### ③入力・集計

パソコン1台もしくは2台を使用し、読み合わせ担当者と入力担当者の2名一組で随時データ入力・集計。

毎日夕方、その日のデータの最終更新。完了後、翌日用の新しいシートを作成して準備。

以下、②・③を繰り返す。

#### 【トラブルの内容】

- ①一覧表出力時の設定ミスやデータ集計の遅れ等により、当日確認を行う一覧表ではなく前日の一覧表を出力し、安否確認が終了した学生に結果的に複数回の電話をかけたケースがあった。
- ②同じケースで、該当学生が大学に電話番号の変更を届け出ていなかったために、変更前の電話番号にかけた結果、当然つながらなかったり、新しくその番号を付与された人間にかけたため、そのような時に限って複数回かけて、クレームを受けたりした。
- ③教務システム登録上の電話番号がつながらなかった（番号該当なし）ので緊急連絡カードを調べた結果、そちらの番号で安否確認を行うことができた。

#### 【特記事項】

「緊急連絡用カード」の有効性。

上記の通り、教務システム登録の電話番号がつながらなかった学生（変更前の電話番号が記載）の安否確認時に緊急連絡用カード（変更後の電話番号が記載）を用いて安否確認を行ったところ、高確率で学生につながった。

また、安否確認の後半では、電話がつかない学生も絞られてきたため、緊急連絡用カードの「友人欄」を元に該当学生の友人に、「卒業高校欄」を元に同年に該当者と同じ高校を卒業した学生に、「保護者勤務先欄」を元に保護者の勤務先に調査対象者の安否を確認したところ、こちらも高確率で安否を確認することができた。

本来であれば、「住所、電話番号を変更した場合は早急に変更届を大学（教務課もしくは学務係）に提出」することとなっているのだが、それを怠っている学生数が非常に多かったためにこのような事象が発生した。

## 7. 防災備蓄品について

防災備蓄品については、施設部施設課の担当なので詳しい言及はしないが、少なくとも今回の震災においては、施設課の周到な準備によって、避難者に対し十分と思われる備蓄品を供出することができた（乾パン、水等は中学高等学校への支援）ことは不幸中の幸いである。

## 8. 今後大規模災害（地震）が発生した場合の対応について（提言）

震災発生時刻（14：46）が、職員の側では勤務時間内であり、また教員の側でも全学教授会開催中であったために、学内には相当数の教職員が存在していたので、避難

誘導、避難場所作成において、できる限り迅速に行うことができた。

しかし、未曾有の災害であることを差し引いても、相当の混乱の中での動きだったことは事実であるため、今後の防災訓練においては、より一層有事に即した内容での訓練内容が求められよう。

また、4月7日（木）の現時点で最大規模の余震は、深夜23：32に発生したため、ほとんどの教職員は、翌朝まで大学に向かうことはなかった。

これらのことから「東北学院大学災害対策に関する規程」に基づく、教職員の即応体制についても早急な制定が必要である。

また、当日もしくは翌日以降約1週間の勤務体制の整備も必要であろう。今回、大地震と大津波という特殊な環境下での勤務であったが、翌日以降に勤務した者は、帰宅したまま一度も勤務していない者（家族の被災等止むを得ない状況は除く）に対して大きな感情的なしこりができたのは否定できない。

今後の即応体制制定の際には、これらの事象も踏まえての体制作りが望まれる。